

山鹿市教育創造「夢プロジェクト」

～夢のある、魅力ある山鹿市の教育を目指して～

熊本県鹿本教育事務所

※平成25年3月末で閉所しました。

1 山鹿市教育創造「夢プロジェクト」を立ち上げた理由

学校は常に様々な教育課題への対応が迫られおり、その教育課題に柔軟に対応できる学校力や危機管理においても管理職の想定力がこれまで以上に求められています。

現実問題として、負担感を感じている教職員は多く、部活動、諸調査、文書処理など、学校として早急に取り組む課題は山積みされています。

県教育委員会特命PTによる懸命の取組で一定の成果は見られるものの、まだまだ教育現場の取組には格差が見られるのが実態です。

学校の教育活動の中心は「授業」です。しかし、今、学校は様々な教育課題に対処療法的に対応することに追われ、本来一番力を入れなければならない「授業」に十分力を入れることができていないのが現状かもしれません。

そこで、山鹿市特有の実態を含め、今日的課題に対応できる、**夢のある、魅力ある山鹿市の教育を創造**するために、平成23年度に熊本県鹿本教育事務所は、山鹿市教育委員会と協同で、山鹿市教育創造「夢プロジェクト」緊急2カ年計画を立ち上げました。

2 「夢プロジェクト」の目的

中嶋憲正 山鹿市長の「子どもはやまがの宝だ宣言」やキャッチフレーズ「限りない可能性への挑戦」を受けるとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」、山鹿市教育基本計画の推進による子どもたちの夢実現に向けて、**夢のある、魅力ある山鹿市の教育を創造**することです。

そのために、授業改革を中心に据えた新たな教育課題に柔軟に対応できる学校づくりを目指しています。つまり、**教職員が本務に従事できる新たな学校づくり**です。

3 取組の具体例

1 「学び合い」をキーワードにした「日常の授業改革」

学校教育法第30条2項の学力の定義に、学力の3要素が示してあります。①基礎的・基本的な知識や技能、②それらを活用しての思考力、表現力、判断力等の育成、③学習意欲です。山鹿市の子どもたちは、基礎的・基本的な知識や技能、学習規律は概ね定着している実態があります。しかし、思考力、判断力、表現力等の育成には依然として課題が認められます。

この課題に対応するためには、自分の考えを発表する場の確保や、創造的・協働的な学び、コミュニケーション型の学びが必要であると思います。教師主導の授業から児童生徒主体の授業への質的転換を図らなければなりません。簡単に表現すると「学び合い」のある授業の日常化です。

そして、成果を上げるには、**教育のインフラを整備**しなければなりません。

教育のインフラには①学びのインフラ②育ちのインフラ③環境インフラなどがあります。ここでは、①学びのインフラ整備について紹介します。例示すると「ああそれか」と思われるところがあると思います。

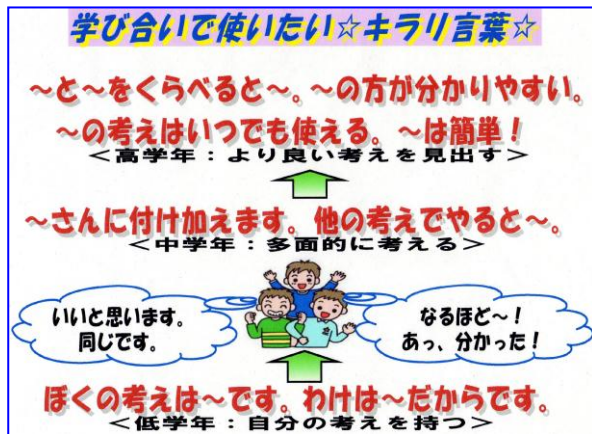


図1

図1は、「学び合い言語」のインフラ、図2は、「学習過程」のインフラです。

基本的に、学習規律、言語活動、学習過程、学習定着があります。学習定着のインフラでは、朝・帰りの会、授業と家庭学習をリンクさせて成果を上げている学校もあります。

「作って終わり」ではなく、スパイラルアップさせるシステムが必要です。このシステムもインフラとして整備しなければ

なりません。これが定着のマネジメントです。このインフラ整備を学年、学級の壁を越えて学校総体として取り組むことが組織として成果を上げる秘訣だと思います。そのために、管理職は職員のベクトルをそろえる目標管理が求められます。

2 新たな教育課題に柔軟に対応できる学校づくり【校務改革】

これからの管理職には「管理」する力ではなく既存の枠組みにとらわれず、情報を自ら創造的に編集してよりよいものとする「マネジメント」する力が必要であり、マネジメントには「情報編集力」が必要であるとも言われます。

学校の教育活動は、本来、授業を中心に展開されなければならないと思います。しかし、授業以外のことで対応しなければならないことが多く、教材研究等、授業に専念することが難しい状況にあります。

そこで、これまで常識として行ってきた職員会議の必要性など、これまでの学校の枠組みにとらわれない新たな視点で学校を見直すことが必要であると思います。

また、上記の1、2の取組は切り離して実現できるものではありません。一体となって推進していかなければ実現は難しいと思います。そして、この取組を具体的に理解していただくために、平成23年度は5回、平成24年度は4回の研修や講演等を関係機関と連携して設定しました。これらの講演等は単発的な研修ではなく、「夢プロジェクト」の理解を深め、目的を達成するための重要な手だてとして位置づけました。

図1・2は、大道小学校の例です。



図2

4 夢プロジェクト理解のための研修会・講演会

【平成23年度の研修会等】

- 第1弾 「新学習指導要領本格実施に伴う言語活動の充実等、教師の授業力向上のための実践的取組の実際（対話型授業）」教育行政研修会 [指導主事等対象]
熊本大学教授 河野 順子 氏【H23. 5. 9(月)実施】
- 第2弾 「教師の授業力向上のための方策と言語活動の充実」 [山鹿市全職員対象]
文部科学省教科調査官 富山 哲也 氏【H23. 8. 11(木)実施】
- 第3弾 「当たり前を止める、子どもが変わる（学校改革）」[山鹿市校長・教頭対象]
前・東村山市立大岱小校長 西留 安雄 氏【H23. 8. 23(火)実施】
- 第4弾 「夢プロジェクト」講演会Ⅰ「限りない可能性への挑戦Ⅰ」
[山鹿市小中高校生、教職員、一般市民対象]
大阪ガス陸上部 江里口 匡史 氏【H23. 11. 12(土)実施】
- 第5弾 「夢プロジェクト」講演会Ⅱ「高い塔から水平線を見渡せ」
[山鹿市小中高校生、教職員、一般市民対象]
JAXAシニアフェロー 川口 淳一郎 氏【H23. 12. 11(日)実施】

【平成24年度の研修会等】

- 第1弾 「学校大改革への挑戦」 山鹿市教育委員会・校長・教頭等教育講演会
東京都品川区教育長 若月 秀夫 氏【H24. 5. 11(金)実施】
- 第2弾 「学びを起こす学校改革」 山鹿市教育センター全体研修会
前・東村山市立大岱小校長 西留 安雄 氏【H24. 8. 3(金)実施】
- 第3弾 「マネジメントは動物園に学べ！」 市民「夢プロジェクト」講演会Ⅰ
前・旭山動物園長 小菅 正夫 氏【H24. 9. 29(土)実施】
- 第4弾 「限りない可能性への挑戦」 健全育成大会「夢プロジェクト」講演会Ⅱ
秀岳館高等学校 和太鼓部【H24. 11. 10(土)実施】

本市が進めている「夢プロジェクト」の目的は、教職員が本務に従事できる新たな学校づくりです。教職員が子どもや授業と向き合うことに専念できるような校務改革を行うことで、学校の教育活動は本来の機能を取り戻すことができます。このような学校にこそ、特色ある学校経営、特色ある教育活動が展開できると考えています。それが、学校の **Only One** であり、このことを子どもたちや教職員が自覚することでスクールプライドが育ってくると考えています。

先生方が授業づくりに燃え、管理職が教職員や児童生徒に夢を持たせるロマンやビジョンを持った経営ができるようになれば、先生方は落ち着いた教育活動ができます。それが、児童生徒に伝わり、保護者に伝わることで、信頼の絆が強くなり、教職員の充実感、やりがいへとつながります。

今後も、子どもが輝く、先生が輝く、学校が輝く、「日本一の学園都市『やまが』」を目指して、山鹿市内全幼・保、小、中、高校が連携して「夢プロジェクト」を推進します。



H25. 9. 29 実施「夢プロジェクト講演会」の様子